

議 事 録

説 明 会 名	「(仮称) 川西久代南こども園の整備・運営に係る対話型市場調査 (サウンディング) 結果とそれをふまえた市の方針」に関する説明会
事 務 局 (担 当 課)	こども未来部こども政策課
開 催 日 時	令和8年6月27日 (土) 10:00～11:00
開 催 場 所	久代幼稚園
事務局	こども未来部長 岡本 敬子 こども未来部副部長 増田 善則 こども未来部こども政策課長 野田 忠生 こども未来部こども政策課長補佐 中村 陵 こども未来部こども政策課 主査 白石 未央 教育推進部教育保育課長補佐 小林 文恵
参加者数	29名
会 議 次 第	・配布資料に基づき説明 ・質疑応答

※ 質疑応答の記録については、個人が特定される内容などを伏せた上で、発言者の発言内容をそのまま掲載することを基本的な考え方としています。

(市)

それではただいまより、「(仮称)川西久代南こども園の整備・運営に係る対話型市場調査(サウンディング)結果とそれをふまえた市の方針」に関する説明会を開催いたします。本日はお足元の悪い中、お集まりいただきありがとうございます。私は本日、進行を務める川西市こども未来部こども政策課長の野田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

始めにお配りした資料について確認させていただきます。本日の資料は1枚ものが2種類あります。左上に本日の日付と川西南保育所保護者説明会資料と書かれたものと、もう1つが、2次元コードのついた資料です。もしない方がいらっしゃいましたら挙手をお願いします。大丈夫でしょうか。

本日の説明会は11時までを予定しています。お配りした2次元コードのついた資料に書かせていただいておりますが、本日十分に発言できなかったことであるとか、あるいはみんなの前でちょっと言いにくいこととかいろいろあるかと思いますので、もしありましたら説明会の終了後にこちらの方からお寄せいただけると幸いです。

1時間ではありますが、途中でお手洗い等はご自由にご利用いただけたらと思います。また、もし気分が悪くなった方がいらっしゃいましたら遠慮なく近くの職員へお声掛けください。

本日会場内の録音や撮影はご遠慮いただきますようよろしくお願いいたします。事務局の方で議事録調整のため録音をして、皆様のご発言についてはホームページ等で公開する予定をしております。その際には、個人情報等に十分配慮して、誰がどのような形で発言したか分からない形で公表する予定です。

続きまして、本日の市の出席者をご紹介します。

市の職員紹介

(こども未来部長、こども未来部副部長、教育推進部教育保育課長補佐)

(市)

それでは早速ですが、お配りした資料につきまして、こども未来部長の岡本よりご説明いたします。

(市)

それでは皆様、改めましておはようございます。本日は本当にお忙しい中、こうやって説明会にご参加いただきましてありがとうございます。先月5月29日に久代会館で地域の皆様へ地域説明会を開催いたしました。本日はその地域の皆様へ説明した内容と同じものにはなりますが、特に当事者である保護者の皆様には、様々ご心配なこともあろうかと思しますので、私たちもしっかりとご意見をお聞きしたいというふうに思っています。

まず、私の方から資料に基づきまして、サウンディング結果とそれをふまえた市の方針についてご説明させていただきます。座って失礼いたします。

久代幼稚園、そして川西南保育所の一体化、民間移管につきましては、これまでも説明会やタウンミーティングを行いまして、保護者の皆様、地域の皆様から多くの声を伺ってまいりました。市といたしましては、入所保留児の一刻も早い解消に加えまして、少人数化が進む久代幼稚園の教育保育環境を速やかに改善する、これが最優先の課題であると考えまして、令和10年4月の開設が可能である旧市営久代団地跡地が最もふさわしい場所として判断をしております。

しかしながら、住民の皆様から現在地での建て替え、これを望む切実な声を受けまして、改めて民間の法人さんの意見や提案を確認するサウンディング調査を実施いたしました。サウンディング調査は3月から4

月にかけて行って、7つの事業者さんの参加がございました。このお配りしている資料の「1. サウンディング結果」に記載していますとおり、民間法人との対話では、令和10年4月の開設をめざす場合、旧市営久代団地跡地での整備以外に方法がないとの意見が大半でございました。他方で川西南保育所で運営を継続しながら工事をするということに対しては、騒音対策など一定の制約があるものの、現地建て替えの経験をお持ちの法人が存在するという事も分かりました。また、昨今の物価高騰や資材不足の影響から通常よりも長い工期が必要との意見が多数ございました。

次にサウンディング結果をふまえた市の方針については、2の方に記載しておりますが、まずサウンディング調査の結果をふまえた総合的な判断として、昨今の社会情勢下で令和10年度の開設を押し進めるということは、4月の開園に間に合わないというリスクが極めて高いと結論付けました。従いまして、令和10年度における久代幼稚園、川西南保育所の一体化による新施設の開設は見送ることといたしました。

このように令和10年度の新施設開設を見送ることにより開設時期に猶予が生まれたことから開設場所につきましては、住民の皆様のご要望を最大限に汲み取って、久代幼稚園敷地での建て替えを第1候補として民間法人の募集に向けて調整を進めてまいります。なお、民間移管につきましては、新施設の開設と円滑な民間への移行を確実にを行うため、令和10年度に向けて取り組みたいと考えております。民間移管は大きな改革を伴う取り組みであります。保護者の皆様からは民間移管への不安の声を多数寄せられております。保護者の皆様の不安を解消するためにも、保育士や指導主事など現場の職員を中心としたチームで検討を進めてまいります。その内容は、公募条件に反映させるなど、児童と保護者の皆様が安心できるようお子様と保護者の皆様に寄り添った取組を徹底してまいりたいと考えております。

この後のスケジュールでございますが、3番になります。予定であります、今回大きな方針転換をいたしましたので、市の方針の実現可能性について応募してくださる法人さんがいらっしゃるのかなど確認する必要があります。そのためにサウンディング調査に参加された7法人に追加のサウンディングを実施することとし、その結果をふまえて詳細については、9月までに明らかにしてまいります。本日時点での状況を申し上げますと追加のサウンディング調査は終えたところでございます。本日この場でその内容についてお伝えするということではできません。それは市の方針を協議する途中の段階、すなわち市の意思形成の途中でありますので、内容について具体的なことをお伝えすることはできませんが、先ほど申し上げましたように、8月中には新設園への開設時期などより具体的な市の方針をお示しいたします。保護者の皆様には今後も意見交換の機会を持って是非ご意見を聞かせていただきながら丁寧に進めてまいります所存でございます。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

(市)

それではただいま説明についてご質問等のある方は、職員がマイクをお持ちしますので、挙手をお願いいたします。

(市民)

まず、あの2枚目のプリントのQRコード、こういった形で作っていただいております。なかなかこういう場面でお話するのはすごく緊張してと思いますし、皆さん、まあ私も緊張しながら喋っているんですけど、こういう発言する場を作っていただけるというのはすごく保護者にとっても安心感に繋がるところですし、聞いてもらえるっていうところで、受けていただいているということですごく嬉しく感じています。これなんですけど、ここに来られてない保護者にもこのQRコードを載せるような形を取っていただけるんでしょうか。

(市)

はい。説明会后に資料と合わせまして、QR コードを園から渡すように考えております。

(市民)

はい、ありがとうございます。では、この QR コード、また他の保護者にも配っていただいて、また意見の吸い上げの方をお願いしたいのと、毎回こういう説明会、まあ地域の方も参加させてもらって、まあ代表でするので、一応お話、私させてもらってるんですけども、まあ今回もここに来られるの初めての保護者の方もおられ、毎回私はいるんで、前に立たれている方もどのような方かっていうのも分かってるんで、私と前に立たれている方との話し合いじゃなくて、皆さん聞いておられるっていうところで、初めての方もいらっしゃるし、この話初めて聞くっていう方もいらっしゃるんで、より丁寧な、私も質問内容が重複することがあると思うんですけども、そこはちょっとそれ前も答えたやんじゃなくて、一旦受けていただいて、質問内容に答えていただけたら幸いです。よろしくお願いします。

で、あの質問なんですけども、前回も民間移管について、令和 10 年めざすっていうところで、それは続いてやっていけるんですかっていうところで、やると。場所については検討するけれども、移管については令和 10 年をめざしてやっていくんだっていうところでも変わりありませんっていう話をされたと思います。

で、どういうふうにされるのかっていうので、川西南保育所の建屋を使って、そこに民間さんが入ってくるところで、今第 2 次のサウンディング調査をかけていっているっていう話を受けたと思うんですけども、令和 10 年にこども園として開設を民間さんを誘致して開設をしようと思っているんでしょうか。こども園として。今の川西南保育所を建屋を利用してこども園として民間さんを誘致するであってますか。

(市)

はい。ありがとうございます。こういった手法で、令和 10 年度から民間さんに入っていただくかは、今サウンディングの中で、こういう意見交換をして、検討した上で、また 9 月までには明らかにしたいなと思っています。ただその 1 つの方法として、認定こども園として運営するというのは、民間法人からもそういった経験もあるという話も聞いていますし、1 つの方法としてはあるのかなというふうに思っております。

(市)

ちょっと補足をさせていただきますと、資料の方にもお示しさせていただいているように、2 番のサウンディング結果をふまえた市の方針の、1 番最後のポツです。第一候補地、これは久代幼稚園の敷地です。久代幼稚園の敷地で整備を進めるに当たっては、久代幼稚園の園児さん、将来的に幼稚園に入ろうと思っておられたお子様も含めて、教育保育を保障していかないといけないというふうに市の方では思っています。ですので、久代幼稚園の園児さんを保育所で受け入れて、一緒に教育保育をする、そのためには手法としてこども園にするというのが 1 つの方法であるということで、ご理解いただけたらと思います。

(市民)

今いてはる人を、一旦そのこども園という名前に変えたところに、持っていくという形ですね。今久代で保育を受けてるこどもたちを、こども園という名前にしたら幼稚園の部分と保育園の部分と合わさって保育できるので、川西南保育所の建屋を使ってこども園にして、ここにいるこどもたちをそっちに連れて行きたいという思いがあるんだということで間違いないですか。

(市)

そのとおりです。

(市民)

それは可能なんでしょうか。できるもんなんですか、っていうのも、今結構パンパンで入ってるイメージが私たちにはあるんですけど。それにさらに今ここの久代は4歳児、5歳児がいはいと思うんですけど、その人数をプラスしていくっていうことは現実可能なんですか。その人数をプラスしていくっていうことが実質可能なんですか？認可がおりるといえるのか、ちょっと分からないですけど、表現が。大丈夫なんですか。

(市)

そうですね。今、南保育所定員が80名です。少し多めにみているのもあります。認可に当たりましては、1人当たりの面積が決まっておりますので、それをクリアしないといけないことになっております。南保育所の面積で言いますと、すごく余裕があるわけじゃないんですけども、もう少しだけは、面積上は増やせるのかなと思っております。それから、久代幼稚園のお子様が、今、4歳児が4人、5歳児が2人、令和8年度の4月1日時点では、合計6名のお子さんがいらっしゃいます。人数もすごく多いわけではないので、久代幼稚園のお子様を、一緒に保育する程度だったら、面積的には、余裕があるわけじゃないですけども、何とか可能なんじゃないかなというふうに、面積等は可能かなというふうに判断しております。

(市民)

私、保育所の方なんで、久代幼稚園の方のことは、ちょっと園児さんのことよく分かってないんですけど、聞くとところによると、やっぱり募集を停止するというか、曖昧な情報だったが故に、本当は入りたいけど、やっぱやめとこうって言って、違う幼稚園に行かれたっていう方もいらっしゃるんですね。今の話だとすると、来年度も再来年度も募集は続けていくということになるんですかね。

(市)

幼稚園の募集は、今年度に関しては、10月の初旬に入園説明会をいたします。そのときには、本日の検討結果をふまえて方針をしっかりとご説明できると思いますので、募集は、1号の園児さんがここで保育を継続できるような形で募集を継続したいなと今のところ考えております。

(市民)

こども園にするっていうのは、0歳児の受け入れも将来していくとは思いますが、今、南保育所に久代のこどもたちがどう入るかというのは考えてはるっていうのは分かりました。

0歳児についてはどういうふうに考えておられますか。

(市)

0歳児の保育は、南保育所では行う予定はありません。と言いますのは、現南保育所は、1歳から受け入れることとなっています。0歳児を保育する部屋もありませんので、こども園化したとしても0歳児の保育は実施する予定はありません。

(市民)

分かりました。こっからいつも同じ話になって申し訳ないんですけども、やっぱり建屋そのまま、民間の経営が入ってくるっていうのは、やっぱり保育の方針も変わってしまいますし、今の公立で希望されて入っている保護者の方に見てみたら、やっぱり最後まで公立で見てほしいっていう思いを持って入ってこれているので、単に数字的に受入れれますよとか、建屋としては、詰め込めるっていう形かもしれないですけども、保護者の思いとしては、前も言いましたが、こどもの心っていうのは石ころじゃないので、建物じゃないので最後までやっぱり公立で面倒見ていただいて、新しい建屋になって、0歳児も受け入れ可能ってなってから解体それから建設全部進んでっていうところでの話に何とか切り替えてほしいというのが私の個人の思いです、今、南保育所のこどもたちは公立がよくて入ってこれてる保護者の方がほぼほぼです、やはり公立の運営っていうのを市長にしてもそれはもうちょっと難しいっていう話をタウンミーティングでもされてたんですけども、何とかその公立の運営で、考えてほしい。駄目ならば駄目で、公立の良さを、最大限、引き継いでいただける民間園さんっていうところで、考えてほしいと思います。

私からの質問は以上です。

(市)

他にご質問等ある方いらっしゃいますでしょうか。お配りした資料が分かりませんか、難しかったので説明してほしいということなどでも構いません。

(市民)

何回かちょっと来てなくて、久しぶりに来させてもらったんですけども、建つ場所が変わったのは、よかったかなって個人的に思ってます。で、まだ民間に移管する方向性変わってないんだなあと思いながら聞いてたんですけども。民間さんに移管するメリットってごめんなさい、何だったかちょっともう一度お聞かせいただけますでしょうか。

(市)

はい。市として、なぜ一体化して民営化を進めていこうとしているのかという非常に根幹の重要なポイントの部分ですのもう一度説明させていただきます。まず今、市内に保育施設が60ほどあるんですけども、そのうちの8割ぐらいが民間で、民間の8割ぐらいで市のお子様を受け入れていただいています。2割は市立の保育所や幼稚園こども園を運営しています。今、私たちが、こういう状況の中でめざさないといけないのが、市全体の全ての施設が、お互いに学び合って、保育の質を高めていくという、そういうことだと考えています。例えば支援が必要なお子様への保育であったり、多国籍なインクルーシブ保育の推進であったりそういったことも含めてです。そういった質の向上を進めていくに当たって、これから市立がしないといけない役割、市立が担うべき役割は、市内の全ての施設の質を高めていくことだと考えています。

一方で、お子様を受け入れて保育をしていただくという部分は、民間の方に委ねていくというような考えです。ですので、一体化したこども園の保育の運営に関しては、民間さんに委ねていく。市立としては市立でしかできない役割、それは市の全ての施設を例えば巡回したり、研修したり、小学校との、地域との交流を活性化していくというような、そういった役割を進めていく、強化していく必要があると考えています。

そのために、人であったり財源を効率的に配分していくということもありますし、長期的な川西市全体の保育というところを考えて、民間移管を進めていく方針には変わりないということです。

今回、久代幼稚園と川西南保育所を一体化したこども園については、今言ったような市の大きな考え方の

もとで、民間に移管をしていくという方針で進めています。

(市民)

すみません。今のお話で、市が巡回、研修、小学校との関わりを活性化っていう3点出たんですけども、もう少し具体的に、どんなふうにお考えか聞かせてもらえますか。

(市)

今やっていることも含めて、今後市がどのような展開をしていこうとしているかというところ、市教委から説明します。

(市)

失礼します。市教委としまして、指導主事と大学の講師先生や保育指導員の先生とともに、民間施設の巡回訪問を行っております。新規園に関しては、年間3回、通常は1回程度ですが、今までそういう形で民間園の巡回を行い、保育の質が一定に保たれるように回っておりました。なかなか継続して市教委から巡回をすることが難しい部分もありますので、乳幼児教育保育アドバイザーという役職を新たに設け、市立園の職員がそのアドバイザーの役割を担って、活動を始めているところです。将来的には市立こども園にそれぞれアドバイザーを配置し、地域の民間施設、また公立施設も含めて一緒に学びを深めていく、そういう巡回を続けていきたいと思っております。

現在は、加茂こども園に乳幼児教育保育アドバイザーを配置しており、そのアドバイザーが加茂からこちらの久代地域全体の民間も市立も巡回を行っております。そこでは、公立園の公開保育のご案内であったり、教育保育課が巡回した後、継続して質が保たれているかどうか、2週間に1回、月1回程度で巡回を行っております。

今、保育をしていて「こういうところで困っている」とか、「こんなところで保護者にどうやって啓発していったらいいだろう」、「小学校と繋がっていききたいけれども方法がちょっと分からない」というところにアドバイスをしたり、市教委と繋げたり、学校への連絡を行ったりという形で、具体的に進めているところです。将来的には先ほども申しましたように、市立こども園にアドバイザーを配置しまして、各地域でそういった活動ができるように進めています。

(市民)

各地域で最後の1文ですけど、各地域でそういった活動ができるように、加茂こども園のアドバイザーが今各地域に、よく分からないですけど。

(市)

今市内に4園、市立のこども園がありますが、多田こども園もでき、あわせて5園のこども園の方に、1人ずつ乳幼児教育保育アドバイザーを配置して、加茂だったらこの南部地域、川西だったら川西こども園の地域、それぞれ地域の園の巡回を主にやっていくと考えております。

(市民)

乳幼児教育保育アドバイザーという方は、この5園に1人ずつで、川西市で5人ということですか。

(市)

そうですね、今考えているのは5名ということになっていますが、今後、もう少し加わっていけるように、配置の方は努力をしていきたいと思っております。アドバイザーがずっと1人で回るというわけではなく、市の指導主事も一緒に回ったり、組み合わせを変えながら、いろいろな地域を見ていくということ、またアドバイザーでしっかり協議をしながら、こういった合同研修会が必要か、今度こういうことをこの地域ではやっていきたいという話し合いをしながら、全体のこととその地域のことを主にやっていくと考えております。

(市民)

そもそも、公立の方向とあと民間さんのやり方っていうのは、民間さんっていうのは、例えば宗教をもとにとか、何かの教育、モンテッソーリとか、何か体育でとか、何かそういう、特色というか、教えるものっていうか、そういうものがあって、こどもたちにそれをもとに成長させたいっていう根本的な教育理念みたいなものをお持ちのところが多いと思うんです。

川西南保育所で言えば、教育理念がないっていうことを言ってるんじゃないくて、やっぱりこどもたちの主体性をすごく大事にしてくださってるっていうところに、ものすごい魅力を感じてるんですね、私たち保護者は。こどもってすごい力持ってるんで、教えて、例えば足し算ができるとか、フラッシュ暗算ができるとか、やろうと思ったらもう教え込んだら、すごい力を発揮するから、できること、英語ペラペラ喋るとか、体育でバク転するとか、そういうの教えたら教えるだけ、できる力っていうのは持ってると思うんですけど。

でも、本当に大切なのはどこかって、今教育の中でも言われてますけれども、見えない力、例えば、苦しい時に苦しいですって、周りに助けを求める、しんどいって言えるって言う。お友達がこんな顔してたらしんどいん違うかなって感じれる、そういう形には出てこない。数学ができる、国語が何かできる、運動ができる、そういうものじゃない本当にその心の人間を支える根っこの部分っていうのを育てるためには、そういう教え込みとか何かの理念やモットーとかをがーっとこう詰め込むんじゃないくて、こどもたちが気づいて、こどもたち同士の中で育っていく教育保育が大切って言われてる。それを今、南の先生たちは本当に大切にしてくださって、一生懸命それをね、こどもたちとともに学んでやってくださっているというのがありますし、そしてやっぱり保護者も忙しいので、なかなか、そういう保育とかっていうところで、どういうふうにこどもと接していけばいいのかなっていうところがある中、やっぱり懇談のときとかすごく、1時間しかない中で大切なことってなんかなっていう、親とこどもの関わりとか、どういうふうにこどもを見ていこうっていうところで、いろいろ勉強させてもらえるんですね。

そういう機会がやっぱり少なくともあるんです。そういうところが川西南の魅力というか、いいところなんですけど、前回も来られた保護者の中で、私は民間で働いてますけどって、もう民間はもうトップダウンですよっていう話で、やっぱりこういうふうにやるねんって言ってるところに、この少ない5園で5人しかいないアドバイザーの方が入って、何を言っても、そこにはこれでこどもたちを育てたいという理念があるところに、いや、公立はこういうふうにやってますっていうのを持ってたとして、できるのかなっていうのが、保護者としてはすごい疑問なんですけど、その辺どう思われてますか。

(市)

民間法人の教育保育の方針、教育理念はしっかりあるなというのは回っていて、すごく感じます。保護者様がおっしゃったように、運動ができるとか、文字が書けるとか、そういうことを園のアピールポイントとして出しているところももちろんあります。

その中で、川西市としてめざしているこども主体の教育保育であったり、就学前施設は心情・意欲・態度を育てるところであって何かができる、評価をしていくのが目的ではないということは、いろいろな場面を通じて話はさせていただいております。すぐに法人がこういうふうに変えます、とはならないですが、言い続けていくことも大事ですし、施設長会議で理念、川西市がめざす部分というのは教育長からずっと話をさせていただいておりますし、管理職協議会の中でもどう考えているかというのを、みんなで協議する場も持っております。

現場の先生に対しても、市立の公開保育にご案内をしたり、いろいろな保育の方法に触れていただく機会を設けております。民間園に就職したら、その園のやり方しか知らない方もいらっしゃるので、これが正しいと思ってやってらっしゃる方もいます。教育保育にこれが正しくてこれが悪いというのはなく、いろいろなやり方があります。めざしていくところの根幹の部分が、ちゃんと持っているか持っていないかということが、きっと大事であるかなと思いますので、そういった部分を巡回保育、巡回指導の中で、アドバイザーが伝えていくというのが大事かなと思っています。すぐが変わっていくのかと言われると、私も自信持って変わります、とも言い切れない部分はありますが、ただ、南保育所でこれまでやってきた教育保育の大事にしている部分は、しっかりと次の法人の方に伝えていきながら、こういうことを大事に川西市では考えています、一緒にやっていきましょうと、理念の部分は私たちが伝えていきたいと思っております。答えになっていなかったら申し訳ないです。

(市民)

めざす位置っていうところでもそういう答え方しかできはらへんのはもう重々分かるんですけど、やっぱり保護者の立場からして、今ある保育っていうのはそういう満たされたそういう、私たちが、正確不正解がないっておっしゃってる、もうそれすごく分かるんです。

やっぱり体育を教えて欲しいと思ってる親にしてみたらそこに行くのが正解ですから。でも私たち保護者としては、やっぱり南の保育に惚れ込んで入ってるわけですし、そこをいくらこう引き継いでくれって言ったとて、なかなか民間さんには引き継がれへんのんちゃうのって思うところなんですよ。やっぱりそこが、何としてでも公立で残してほしいこの南を残してほしいっていう、根本的なところになってきてるんですね。

引き継ぐ引き継ぐという話を何回も聞いてるんですけども、恐らくその経営者が変わってるのにやっぱ民間と公立、全然やり方が違うので、引き継げないだろうっていうところで、やっぱり保護者としては、そこは何かこう折り合いがつかない部分で、もやもやし続けてるところなんです。

こういうふうにしてくださいよって言って、この7園ですかね、7法人に今、サウンディングかけてるっていうところで、できるできない話も含んで、進んでいこうとされてるとは思うんですけども、本当にこの保護者の思いを汲み取って、民間さんとして、こういう地域に根づいたっていう、子育て拠点であるという自覚を持って入ってこられるところを見つけてくれないと、やっぱりそのあと開設したはいいいけれども、本当に不平・不満ばかりで、それぐらいやっぱり、南の保育の質が高いので、もう民間に真似できひんことをしていただいていると思ってるんで。そこをやっぱり潰してしまっ、次入ってもらうっていうところでは、民間さんにすごい努力してもらわんと、また川西市もその努力ができるようにちょっとお金もつぎ込んでもらわんと、なかなかやっぱり今の保護者の気持ちは落ち着く先がないんかなっていうところで、いつも私はもやもやしてます。

7園の方がもちろんどこが来てるんですかって今聞いても教えられないのは分かるんですけど、大丈夫かなって。本当、保護者の気持ちとか、今、大切に育ててくれてる保育士さんの気持ちってもう親以上に関わってくださってるんですよ朝7時から夜7時まで。その時間を1週間、月曜日から土曜日まで預かってく

ださってるっていう、もう親以上の親のわけです。その思いを持ってちゃんと引き継いでくれるところを、責任持って見つけてほしいと思いますし、でもやっぱり親としては、公立で、何としても公立で残したって欲しいなあって。

出ましたさっきの建屋の話ではないですけども、数の問題じゃなくって、キャパがね行けるいかれへんの問題じゃなくって、ある意味、今の古い建屋におるときにもやっぱりその子らはそこで終われるようには、してやって、新しい建屋から民間さんっていうような形でちょっとこう切りがいいというか、切りがつけやすいような形で、何とかならもんかなというふうに思ってます。

急に、引き継ぎ言うたって、同じ建屋の中に公立でやってたところが、ある日突然民間が入ってきてっていうのは、先生たちもやりにくいと思うし、民間の人にしても、公立の先生があれやこれやと民間さんには民間の理念があってその方向でやっていきたいのに、いやそれはちょっと教え込みやからとか主体性じゃないから、なんて言われたら、絶対うまくいかへんと思うんですよね。なかなか交わること難しいところにミックスできへんのんちゃうかなっていう思いがすごくあるんで。もう1回移管の時期っていうのを見直してほしいなって強く思ってます。

(市)

まず、本当に川西南保育所の保育を非常に高く評価していただいて、信頼していただいて、先生たちとも信頼関係を築いていただいていることに、私たちもとても嬉しく思いますし、感謝しています。そういった南保育所の保育というのを、ここまで高く評価していただいていることを非常に重く受け止めて、私たちが今からできることとしては、保育所の先生たちと、何度も話をする、保護者の皆様とも何度も話をする。それは何のためかと言ったらお預かりしているお子様のことをまず一番に考えるっていうそこを変えずに、考えていきたいという思いであります。

具体的には、段階的に、まず、公募する前、法人さんを募集する前の段階というのが1つあると思います。次の段階では法人さんが決まってからどうするかという段階で、その次の段階として、園が開設してから安定的に運営するまでの段階、この3段階でどういった進め方をするのかというところが大きなポイントだと思っています。まず今、この8月末に大きな方針が決まりましたら、公募前の条件ですね、これから民間法人を募集しますので、募集に当たって、どのような条件をつけるかというところを、今回、いただいた意見であるとか、それから南保育所の保育士皆さんの意見、そういったものを聞きながら条件を考えていきたいと思っています。

こどもを主体とする保育という根幹の部分は、必ず引き継いでほしいという思い、これは私たちも同じです。それに加えて、これまでの説明会でも何度かご意見も出ています。制服のこととか、体操服とかどうなるんだとか保護者負担は、民間さんになって増えるんじゃないかとかいろいろなご心配をいただいています。

また支援の必要なお子様についてもしっかりとそのこどもに合った保育をしてくれるんだろうかといった声もいただいていますので、そういったことも、公募前には市の姿勢としてきっちり示して、それに協力していただける、そういった確約をいただける法人さんを募集するということだと思っています。

その次の段階では、民間法人さんが決まって終わりではなくて、決まってから保護者の皆さんも交えて、私たちも市も交えた、地域の皆様も入っていただくということもあると思います。そういった、法人、保護者、市の3者の協議会を作って、準備段階でのやり方、引き継ぎ保育のやり方なんかも、3者でしっかりと話をしながら、保護者の皆さんも納得ができるような形で進めていく。十分に皆様が安心して、開設に向けて、準備の段階プロセスを踏んだ上で、開園する。開園後も引き継がれた保育が継続されるように、そのフォローをしていく。そういった仕組みも考えていかないといけないと思っています。そういったことは皆さんの

ご意見、それから先生たちの意見がなければ私たちだけでは、到底十分なものが考えられないと思いますので、是非その点も含めてご意見をいただきたいという思いで本日来させていただいています。

(市民)

すみません、失礼します。初めてこういうのに来たんですけど。さっきの民間と公立の割合聞いて、何か単純に市立として今後、経営していてもいいのかなって。普通に単純に思いました。それを残すメリットがちゃんとあるんやったら、残すのが1つ、単純にいいんかなって思ったのと。

私もちょっと教育現場で仕事させてもらっているんで、アドバイザーさん、市教委さんとの連携とか、あるんですけども、この前も視察に来られてて、でも来る時間ってほんの一瞬やったりとか、だからって言って、何を見られてるとか、1日朝から晩までやってることも、何を理解して帰ってはるんかとかちょっとわからへんまま、ああ、見にきてはるなあ、と思って時間が過ぎていくってような感じで。先ほども、年に2、3回っておっしゃってたんですけど、いや本当にそんな感じで。じゃあ、現場の実際働いてる教育者の声がどこまで、反映された市の教育になってるのかわからへんまま、私も教育の現場で働いてるんですけど、だからちょっと、1個本当にお願ひしますっていうのは、こうやって保護者の意見を聞いてくださる場を欲しいし、先ほどの先生の意見、先生の意見って聞いてって言ってくださったんですけど、本当に今の教育現場で、ああでもないこうでもない、いろんなことが公立の現場で本当にいろいろご配慮もいただいて、自分の我が子のペースに合わせてもらった教育をしてもらえてるっていうことがすごく安心しながら通わせてもらってる、そこが1番の公立難しさであったり、良さであったりってするなあっていうのは、私も別に私立の中学校とか、私立の高校とかで、働いたことないか分からないんですけど。いろんな先生がいて、いろんな考え方があって、いろんなこどもがいて、いろんなこどものペースがあってっていうのが、公立の良さだになって本当に思ってるので、何かそういう部分で、何を大事にされて、どういうところが良くて、どういうところに困ってるっていう、現場の先生たちの声を、1番しっかり聞いてもらって、何か最終していただきたいなって。

アドバイザーとか年に数回とか来られる方のアドバイスを、聞くのももちろん大事。それはめちゃめちゃ分かります。けど、実際やってるそれ以外の何百日何千時間みたいなその時間を先生たちが何を大事にしているか、そういう部分を本当によく、よく聞いていただいて。やっぱり民間だろうが公立だろうが先生たちに心のゆとり、心の余裕がないと、保育の質は高まらへん。教育の質って、高まらへんと思うので、それをするために、じゃあ、民間にすることなのか、お金をかけるのか、人材を配置することにお金をかけるのかってめっちゃ思うんですよ。やっぱり人手不足が1番心の余裕がないと思うし。

ここでちょっと全然ちょっと余談になるんですけど私民間の保育園に、去年、一昨年と、こどもを預けてたんですけど、ちょっとごちゃっとありましたよね。そして、ごちゃっとあった次の年、よりもさらに次の年が、すごいもう心の底から安心してこどもたちを預けられる保育現場にさせていただいたなって思っているんです。すごい人も増えたなって感覚もあったし、先生たちが、みんな穏やかな表情で報告していただいている、そこに毎朝お願いしますと預ける、そこに安心して預けられるこっちの親の安心感がすごくって、かわいい話もいっぱいしてくれるし、笑顔で迎えてもらえる、そこに尽きるなと思うんで、民間とかそうじゃないとかいう部分もちょっと私分らないんですけど。でも、先生たちがどうすれば、心にゆとりを持って、こどもたちに目を見ながら話せるとか、ちょっと忙しいけどしゃがみながら目線合わせて話できるとか、本当にその部分を確保できるような保育の進め方教育の進め方みたいなのが、別にそこに限らずできたらなって思います。そのための時間とか財源のかけ方ができるのを望んでいます。言っというてあれなんですけど、ちょっと仕事行ってくるんで、これで失礼するんで、すみません。

(市民)

すみません。説明ありがとうございました。私も初めて参加する身なので、過去の経緯が分かってないところが多々あるんですけど、一、親の意見として、公立民間っていうところで、正直、民間に娘、通わせて、別に、教育の質が悪いとかいいとか、ていうところは民間の良さもあるし、ここの良さもあると思うんで、そこまであんまり気にしてないっていうのがちょっと1つ、いち親の意見です。

ちょっと何個か質問があるんですけど。久代団地跡地、ここについては、もう諦めたっていうそういう認識でいいんですかね、ていうのが1つと、こども園の民間園への切り換えっていうところは、先ほどの話あったから何となく推測するんですけど。公立から民間に変えるっていうそういうやり方を前提としてるっていうことなのかっていうところと、あんまり私がどうこう言う話じゃないと思いますけど。保育園の先生、民間に切り替わった後は、市の方で何かちゃんとケアされるのか。ちょっとそこら辺を伺いたいなと思っています。

(市)

3点ご質問いただきました。場所について、ここの資料の2番の市の方針の3点目ですね。現久代幼稚園敷地を第1候補地とするということで、最優先の候補地というのは、久代幼稚園の敷地というふうに考えています。

ですから何か大きな障壁がない限り、久代幼稚園の敷地で建て替えをするという方向性です。2点目の、すみません、これ民間への切り換えはの後のご質問、すみません、もう一度お願いします。

(市民)

とある時期から、市から民間に先生ががらっとチェンジするっていうやり方がもう確定なんですかっていうところで、完全な私の意見の1つですけど。新しいところにも立てつつ緩やかに切り換えていけば、多分、こういう問題って起きないんじゃないかなというふうに思ってたので、施設の建築場所がどうこうっていうところも課題はあると思うんで、それが難しかった結果、取りあえず民間に切り替えるっていうのを急にやらなきゃいけないんだろうなと思ってますけど、そのやり方で確定なのかどうかっていうのをまずお聞きしたい。

(市)

まず、今回お示した資料につきましては、この5月20日の時点で市として公式に発表した方針です。最終的な決定については、8月末頃にお示しするということですので、そこを大前提として、お聞きいただけたらと思います。

ですのでこの5月の市の公にした方針としては、久代幼稚園の敷地が場所としては第1候補地ですし、民営化については令和10年度に進めるっていう方針です。今ご指摘いただいたように、確かに運営が民間に移管すると先生が民間の法人さんの先生にがらっと変わります。先ほどご意見でも出ていたように、そうすると急に先生が一斉に建物の中の先生が変わって、大人が変わるってしまくと、こどもたちがやっぱり落ち着かないというところがありますので、そこをどういうふうに、例えば事前の引き継ぎで顔合わせをしておくとか、民間の先生がこどもたちの1人一人の状況を知っておくとか、そういった引き継ぎをどのようにするのがこどもにとっても先生にとっても、それは公立の先生、それから民間の先生双方にとって、良いやり方なのかというのは検討していきたいというふうに思っています。

3点目の、今の公立の保育士の先生たちが民営化後どうなるのかということですが、公立の正職員の保育士については異動という形で雇用については保障されます。会計年度任用職員という制度で働いていただいている先生は、制度上ですね、これは国の制度上、会計年度という年度ごとの雇用となりますので、保障するということはできません。ただ、ご本人のご意向とか、ご事情というのはあると思いますのでそこは聞いていきたいというふうに思っています。

(市民)

ありがとうございます。ちょっとごめんなさい、最後に1点だけ。私の家族もそうだったんですけど、待機児童というか、保育園に入れないこどもたちが1番かわいそうだなと思うので、市としていろんな意見あると思いますけど。こどものために、こういうことはほとんど進めていくところは進めていってもらった方がいいかなというのと、あと民間と市営、他の事例で他の市でも構わないと思いますけど、何かそういうトラブルとか、何かそういう例があるんだったら、そこら辺をちゃんと示して、問題がないことっていうのをちゃんと報告すれば、理解してくださる方結構いると思うんで、そのあたりの説明はまたどっかで聞きたいなと思いました。すみません以上です。

(市民)

はい、私もちょっと仕事の都合がつかず、初めての説明会参加となったので、過去に既に説明いただいた内容だったら申し訳ないんですけど、そもそも何で民間なのか、市立のこども園じゃなくて民間にしなければならないのかっていうその理由の部分が、ちょっと私自身まだ掴めておらずなのでその部分、お聞きしたくって。理由として先ほど、市全体の保育教育の質向上のため、人員だったりお金の配分のためっていうところをご説明いただいたと思うんですけども、その点でどうしても民間にしないではいけないと判断されたその中身、経緯っていうところでどんなことを検討されて、検証されて、こういう理由でどうしても民間にせざるを得ないんだっていうその部分のご説明をちょっとお聞きしたいなと思いました。

(市)

すみません、かなり前からの経緯の部分を丁寧に説明せずに、こういった説明会になっているということは申し訳ないです。改めまして、過去の経緯からご説明させていただきますと、まず1番最初に申し上げたように、川西市内にも、たくさん就学前の施設ができてきたと。そういった状況の中で、それまでは待機児童対策を最重要課題として施設を増やす、定員を拡大する、ということを進めてきたんですけども、待機児童対策はしなければならないんですけども、それに加えて、市のたくさんある60近くの施設がみんなで力を合わせて質を上げていくということが、次の大きな課題だよねということになりました。市内いろいろな考え方を持った類型、いろいろ幼稚園もあれば、保育所もあるし小規模保育もあるみたいなところで、みんなが質を高められる方法というのは、どういう方法がいいかなという検討をしました。

それは、私たち市だけではなくて、いろいろな方に入っていて意見を聞きながら検討しました。そこに出てきた1つの結論というのが、先ほどから教育委員会が説明している拠点施設であったり乳幼児教育保育アドバイザーを配置するというような方向性です。そのときに出た結論としては、市の市立こども園、牧の台みどり、それから、川西、川西北、加茂、多田こども園っていう5つのこども園が、これからの予定も含めてありますけれども、こども園を拠点として、そこに乳幼児教育保育アドバイザーを配置して、市内全域の施設に入っていって巡回するなどして関わって行って、もちろん民間さんにもいい保育をされている、見習うべきところがたくさんあるので、民間さんの良いところそれから、公立の保育所の良いところ、そう

いったところ、お互いが共有する。知らないままではいるのが1番駄目だよねと、お互いが風通しの良い環境を作って、保育を一緒に学んでいきたいと思いますという取組をしましょうということになりました。

そうしたときに、拠点施設として位置づけるにも、教育保育アドバイザーを各園にしっかりと配置するにも、人も、それから財源も必要になってきます。そこに充てる財源は、こども達をお預かりして、保育をするというところは、民間さんに委ねて生み出していこうと。市としては、そういった拠点施設の取組に力を入れようと。じゃあ、なぜ民営化するかということなんですけども、モデルとして、公立と民間の施設の運営費と整備費のコストの比較をいたしました。運営費は、公立が市の一般財源という言い方になりますけれども、比較をして公立が1.26倍で、建物新しく整備する費用が、2.6倍というようなコストも試算しています。そういったかかる費用に、差があるということも、しっかりとそこは目をそらさずに見ないといけないよねというようなことを、専門の先生たちにも、意見をもらいながら話を進めたんですけれども、そういう審議会の場でも意見が出て、新しくこども園を新設する、その整備については民間さんにやってもらいましょう、運営についても、そこは民間さんに委ねていきたいと思います。その分、生み出された財源については市としてしかできないことに力を入れていきたいと思いますということで、この久代幼稚園と川西南保育所を一体化した新設のこども園の整備と運営については民営化をしましょうという方針になりました。すみません。少し長くなりましたけれどもそういう経過です。

(市)

すみません、ちょっと先ほどの説明でちょっと訂正があります。運営費、ごめんなさい。公立と民間で運営費を比べたときに、市の持ち出す財源につきましては約1.6倍ということです。先ほど1.26倍と言いましたが。すみません、そこだけ訂正です。以上です。

(市民)

はい。何で民間なのかというところの理由が分かったので、ご説明いただきありがとうございます。

もう1点だけなんですけども、冒頭、待機児童のところの課題を解決することに、今まで取り組んでこられて、次は質の向上だっというふうにおっしゃられてたんですけれども、その次は質の向上へ取り組まねばってなられたその前提の、こういったところのどういう内容の課題を抱えて、その質の向上を掲げられたのかっていうその、抱えられてる課題感のところ、ちょっとお聞かせいただけますか。

(市)

ちょっとお答えになるか分かりませんが、その拠点施設の議論のときに大きなポイントとして3点ありました。3つの機能を掲げたうちの1つがセーフティーネット機能、もう1つがコーディネート機能、もう1つがシェアリング機能、シェアをしていくっていうこの3つの機能を果たしていくことが質の向上のための大きなポイントですよというような話になりました。

コーディネートというのは、例えば民間さんも含めた施設同士のコーディネートであったり、小学校との接続という意味でのコーディネートであったり、そういったところをコーディネートをするということ。シェアリング、シェアするっていうのはそれぞれの良い保育、良い取組はシェアしていくという、そういう取組をしていかないといけないということ。セーフティーネットの機能については、これについては、公立が主に担ってきたことを、これから全ての民間さんにも担っていただかないといけないよねっていうところで、障がいのあるお子様であるとか、外国にルーツを持つお子様についても、市が先導的にやってきた取組を、民間さんも、もちろん熱心に先進的な取組をされているところもあるんですけれども、そういった取組につ

いて、広げていくっていうこの3つの機能というのを質の向上のポイントとしています。

(市民)

ありがとうございます。

(市民)

民間移管の理由でコストの面ももちろん意識されてるっていうのは、越田市長もお話されてると思うんですけども、今、運営の場合1.6倍、施設に関して2.6倍とおっしゃったんですけども、地方自治体であれば、緊急防災減災事業債とかを使えば、おそらく充当率100%で、70%地方交付税伴うんで、30%の実質負担で、公共施設、条件あれば建つと思うんですけども、その辺も検討はされているんでしょうか。

(市)

はい、もちろんです。今おっしゃっていただいた、市がお金を借りる時の地方債のメニューですけど、最も有利なものを検討した結果、2.6倍でになっております。

(市民)

分かりました、コスト面が解決できればその辺も市立でいけるかなと思ったんですけど、ありがとうございます。

(市)

他にご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

(市民)

すみません。経営の話とか、先ほど聞かせていただいて、市として、何を大事にされるのかなっていうのがちょっと気になっていて。質の向上を結構大々的に置いてるなっていう印象があるんですけども、おそらくあんまり質の向上にお金をかけること、こちらは望んでいないんじゃないかなっていうのはちょっと思うところで。そこではなくて、やっぱりこどもがたくさんいると、街も活気づきますし、たくさんこどもが育てやすい環境で、待機児童であったりとか、今回困ったこともありましたので、自分たちも。その部分に包括して対応していただくというのはやっぱり、こどもにお金を使うのが大事なところなんじゃないかなっていうのはすごい思うところです。このあたり、最近運送会社がおっきいのできたりとかっていうのもあるんですけども、そのあたり、おっきい車がたくさん通ってこどもたち、不安だなとか思ったりするところで、こどもに包括してちゃんと開示していただたら嬉しいなと思います。

(市)

はい、ありがとうございます。こども教育というところで、市としては、市政は「まずこどもの幸せから始める」ということを越田市長も明確に打ち出して、こども教育には重点的に進めているというメッセージを出して進めているっていうのは間違いないです。

ただ、じゃあこども教育って言っても、小学校の教育環境にお金を充てるのか、保育所にお金を充てる場合でもどういう使い方にお金を充てていくのかといったところはそれぞれいろいろな考えがあると思います。全ての皆さんのこれやって欲しいっていうのを全部応えるっていうわけにはいきませんので、皆さんの

意見を聞いた上で、市としての判断をして、ここに投資をしていこうっていうところで今進めています。その1つは、やはり就学前の施設については民間への移管を進めて、市全体の保育の質を高めるっていうところ、ここを進めるっていう判断をしているというところなので、その両方に財源を充てるということはできないというふうに思ってます。今、質の向上にお金をかけることを望んでおられない、他のことに充てて欲しい、というようなご意見もあるかと思いますが、市としてはやはり市全体として、中期的、それから長期的なスパンで見た時に、ここに力を入れていくべきだという判断をしているということです。

(市民)

質の向上もとても大事だと思うんですけども、やっぱ数がないといけなかったりというのもあるんで、そういうことも、減らすと言うよりは、市の資料で見たんですけども、市が運営している施設を減らすみたいな話もあったように思いますので、減らすよりはそこから人がちゃんと入ってきて保育料とかもかも川西市結構高いと思うんで、そういったことも他と比べるとこどもを育てにくい環境なのかなと思ったりするので、その辺のところ大事ですけども、長い目線で見ても市が盛り上がっていくように政策を打ち出していきたいと思っています。

(市)

ありがとうございます。私たちも政策判断するうえでそういった、保護者の方お1人お1人の声というのはとても大切だと思いますので、今いただいたご意見を、しっかりと受け止め、その内容についても市長と教育長にも、きっちり伝えさせていただきたいと思っています。

(市)

それではお時間も過ぎておりますので、意見がなければここで閉会させていただきます。冒頭にお配りしました意見フォームに書き込んでいただけるようにしていますので、ご意見があれば、こちらのフォームにお聞かせいただければと思います。本日はお忙しいところありがとうございました。